

平成28年4月15日
滋賀県信用組合

経営諮問会議の設置ならびに第1回会議の概要について

当信用組合は、理事会の諮問機関として、外部有識者で構成される「経営諮問会議」を新たに設置いたしました。本会議は、外部有識者より経営全般について助言・提言をいただき、これを経営に反映させることにより、経営の客観性・透明性を確保し、コーポレート・ガバナンスを強化することを目的としております。

過日、「第1回経営諮問会議」を開催いたしましたので、その概要につきまして、下記のとおりご報告させていただきます。

記

1. 日時 平成28年2月22日（月） 14:00～15:30

2. 場所 琵琶湖ホテル

3. 出席者

（経営諮問委員）〈順不同、敬称略〉

力石 伸夫 （公益財団法人 淡海環境保全財団 理事長）

藤田 義嗣 （一般社団法人 滋賀経済産業協会 副会長）

濱崎 一志 （公立大学法人 滋賀県立大学 理事・副学長）

片山 聡 （オアシス法律事務所 弁護士）

（滋賀県信用組合）

井上 泰彦 （理事長）

岡野 克博 （常務理事）

佐々木 勝之 （常務理事）

中村 義明 （常勤理事）

藤井 一男 （常勤理事）

野口 晃 （常勤監事）

4. 井上理事長挨拶要旨

当組合は、昭和 26 年 12 月 15 日に、甲賀信用協同組合として水口町を本拠とし、旧甲賀郡（現甲賀市・湖南市）を営業エリアとして発足、地域の組合員の相互扶助を目的とした信用協同組合として発展してまいりました。その後、エリアを滋賀県内全域に広め、名称も「滋賀県信用組合」とし、「滋賀たばこ信用組合」と合併、「高島信用組合」の一部事業譲受けも受ける中、規模も拡大してまいりました。

ところが、不動産バブルが弾け、多額の不良債権が発生したことや、世界的な金融危機を受け、保有有価証券の評価損が急拡大したこともあり、過去、上部団体である全信組連等から資本支援を受けることとなりました。その間、平成 22 年度から 25 年度まで、当期純利益は黒字を確保しておりましたが、地域の中小規模事業者に対する資金供給の円滑化に向けて財務基盤を万全のものとするため、26 年 12 月に公的資金 90 億円を受けました。

今年度は、10 年振りの復配の実現に向けて全役職員が一丸となって取り組んでおります。27 年 9 月期の仮決算の状況から、その可能性は高まっています。しかし、27 年度決算が計画どおり達成できるよう、緊張感をもって業務に邁進してまいりたいと思っています。

本日は、平成 27 年度上半期の業績を中心として、忌憚のないご意見・ご提言を頂戴できますようお願い申し上げます。

5. 当組合からの説明内容

佐々木常務理事より以下の内容について説明いたしました。

- ・平成 27 年度仮決算概況
- ・「経営強化計画」の進捗状況

6. 意見交換要旨

(1) 出席委員の皆様から以下のご意見、ご提言をいただきました。

- ・地域が活力を失いつつある中であって、信用組合は地域創生の先頭に立ち、相互扶助精神をもって走っていくリーダーであるべきである。古事記では「共生」のことを「ともうみ」と読んでいたが、地域社会に役立つ価値を、地域社会と共に「共生（ともうみ）」していく、それが相互扶助精神の目指すべき今日的な姿ではないかと考える。
- ・貸出金平残・貸出金利息収入が増加し、コア業務純益が改善したことは経営強化計画のスタートとしては幸先が良いものとする。しかし、預貸率は 50% を少し上回ったところであり、貸出金利息で経費が賅えていない状況である。早く外部から来て頂いている人材に頼ることなく、自前の人材を育成して貸出金を伸ばすように努めて頂きたい。

- ・ 不動産業向け貸出が増加しているが、かつての不良債権問題の経験からすると、案件・事業体の中身を十分チェックの上、慎重に取り組むようお願いしたい。マイナス金利政策で、貸出競争も厳しくなることが予想される。しかし、無理をした経営、無理をした営業をするべきではなく、堅実な経営に徹して頂きたい。
- ・ 金融機関は一般企業に比べて、戦略において特徴を出しにくいように思うが、将来を見据えた時に、他の金融機関とはどこが違うのか、何か、大手銀行に負けない特徴を出していく必要があるのではないか。
- ・ 預金の観点では、人口の減少も影響を及ぼすが、常に人の顔が見える関係が地域を活かす。顧客とよく顔を合わせて、「ともうみ」のような形が出来上がっていくと、預金の流出も抑えられるのではないか。
- ・ 様々な施策に取り組む中で、やはり、コンプライアンスは遵守して頂きたい。
- ・ 若手が集まる職場とするには、仕事に面白さがなければならない。金融機関として差別化を図りにくい部分はあると思うが、世の中が大きく変化する中で、ニーズを先取りするような形で、どんどん新しいことに挑戦できるような職場であれば魅力的に写ると考える。

(2) 井上理事長からの回答

貴重なご提言を頂きまして、ありがとうございます。頂いた意見を真摯に受け止め、明るく、前向きに、働く職員が一層働き甲斐・生き甲斐を感じられるようなやり方で今後も頑張っまいります。地域社会と共に「ともうみ」していくよう取り組んでまいりますので、今後ともご支援ご指導宜しくお願い申し上げます、お礼に代えさせて頂きたいと思っております。

以上